

博士課程教育リーディングプログラム 平成27年度プログラム実施状況報告書

採択年度	平成24年度		
申請大学名	熊本大学	申請大学長名	原田 信志
申請類型	複合領域型（生命健康）	プログラム責任者名	西村 泰治
整理番号	I 0 2	プログラムコーディネーター名	小椋 光
プログラム名	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム H I G O		

< プログラム進捗状況概要 >

1. プログラムの目的・大学の改革構想

HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) プログラムでは、大学-行政-産業界の密接なタイアップによって、医学・薬学・生命科学等を基盤とする健康生命科学の広く深い専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観（主にアジア）を連結することで、国際・地域社会の諸課題とニーズを俯瞰的に捉えて、その解決に挑戦できるグローバル（グローバル+ローカル）な「健康生命科学パイオニア」としてのリーダーを養成する。

医学・薬学・生命科学等から重要点を抽出・統合して、文理融合型の育成コースを新規開設し、中核となる生命科学分野における高度な専門性を持ちつつ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となったグローバル社会文化科学を通して、日本とアジア、歴史と文化、行政経済と社会倫理などを理解することで、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。具体的には、医療・保健、創薬・薬事、教育・研究など、健康生命科学の諸分野で、ひとの健康の維持・増進に寄与し、コミュニケーション能力を磨いて、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動し、次代を担う産官学の新しいコラボレーションを創出できるグローバル社会リーダーの輩出を実現する。

熊本大学は、全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。本プログラムは、大学院先導機構の統括的な指揮の下に実施され、学長主導の大学改革の核となる。

2. プログラムの進捗状況

平成27年度はプログラムの実施・運営体制の整備、教育カリキュラムの実施、学生支援の実施、プログラム生の獲得に向けた取組、広報活動の実施等を行った。なお、具体的には以下のとおりである。

1. 実施・運営体制の整備

(1) 専任教員の採用

平成27年4月に特任助教1名（外国人教員1名）、平成27年5月に特任助教2名（人文社会科学系教員1名、医薬系教員1名）を採用し、学生支援体制及びプログラム運営体制の強化を図った。

(2) 評価会議の開催

平成28年2月にリーディングプログラム評価会議を開催し、評価会議委員からのプログラム活動における意見や助言を受けた。なお、評価委員からの意見及び助言については、プログラム運営委員会及びWGにおいて、改善に向けた対応を行うこととしている。

2. 教育カリキュラムの実施

(1) 研究室ローテーションの実施

医学、薬学、生命科学全般における幅広い学問領域の基礎力と最先端研究について学ぶため、平成27年度は全38実習における研究室ローテーションを実施した。

(2) 語学講座の実施

国際的視野を持ち、コミュニケーション能力を育成するため、外部講師による中国語講座、英語講座および日本語講座を実施した。

(3) キャリアビジョン開発コースの実施

社会文化科学科目における「キャリアビジョン開発コース（公共政策学、技術マネジメント、異文化コミュニケーション）」を実施した。また、平成27年度からは、社会文化科学担当教員が課題設定やレポートの作成などの研究指導を行う科目として「社会文化科学課題演習」を開講した。

(4) 行政、企業、最先端研究セミナーの実施

行政セミナー 8回

企業セミナー 8回

最先端研究セミナー 41回

(5) インターンシップの実施（インターンシップ名称：実施先）

行政インターンシップ：上天草市

企業インターンシップ：熊本日日新聞社、新日本科学、化学及血清療法研究所

海外インターンシップ：ベトナム（ハノイ大学他）、バングラデシュ（グラミン銀行グループ他）

公募型インターンシップ：JICA、シンガポール国立大学

企画提案型インターンシップ：ニューメキシコ大学、EYアドバイザリー株式会社、ヤマエ久野株式会社

(6) 教育の質の確保

1) 修士及び博士論文審査の一環として、論文を提出する前に、HIGOプログラム独自の社会文化科学に関する成果をまとめたレポートの審査（公開プレゼンテーション）を実施した。（基礎コース[修士課程] 5名、4年コース[博士課程]4名）

2) Qualifying examinationとして、リサーチプロポーザルと履修状況確認のための中間インタビューを実施した。（4年コース[博士課程]5名）

3. 学生支援の実施

(1) 奨励金の支給

平成27年度はプログラム生20名の受入れを行い、プログラム生45名に対して奨励金（20万円/月）を支給した。

(2) 独創的教育研究活動経費の支援

プログラム生からの研究活動提案（申請者29名）について、一次審査（書類審査）及び二次審査（プレゼン審査）を実施し、15名に対して当該経費による支援を行った。

(3) 研究成果発表の支援

プログラム生及び準プログラム生の研究成果発表に係る支援（学会発表旅費 83件、学会参会費 77件、英文校正費 4件他）を行った。

(4) 研究等旅費支援

プログラムの目的に合致した優れた研究推進を図るため、国内外の研究プロジェクト等への参加における旅費支援を3件行った。

4. プログラム生の獲得に向けた取組

(1) 準プログラム生の受入れ

HIGOプログラムのカリキュラムを知り、プログラム生への編入を促すための準プログラム生制度（平成25年度設置）により、平成27年度は6名の学生を受け入れた。

5. 広報活動の実施

(1) パンフレット等の作成

日本語、英語によるパンフレット及びニュースレター（年3回）を発刊し、各種入試説明会等において、プログラムの広報活動に活用した。

(2) ホームページによる情報発信

プログラムの活動情報等を学内外に向け、コンテンツの充実を図り、また、わかりやすい情報発信に努める等の広報活動を実施した。

(3) その他

JR九州情報誌（ブリーズ）へプログラムの広告掲載、Facebookによる情報発信を行う等、多様な広報活動を実施した。

6. その他

(1) 「第3回全国博士課程教育リーディングプログラム学生フォーラム（北海道大学）」に、本学から学生5名が参加し、ワークショップでの議論を行った。

(2) 「博士課程教育リーディングフォーラム2015」に、本学から学生5名、教職員12名、学外協力者2名が参加した。なお、学生及び学外協力者においては、テーマ別に分かれ、他のリーディングプログラム学生等との議論を行った。

(3) 「MBAリーダシッププログラム」を開催し、学生延べ24名、教員延べ6名がMBA（経営学修士）の研修を受講した。なお、来年度から当該プログラムは「リーダシップトレーニング講座」として授業科目（必修）化した。